
小あじの南蛮漬け

長月 タ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小あじの南蛮漬け

【Nコード】

N3352E

【作者名】

長月 夕子

【あらすじ】

夫婦というもの。小あじの南蛮漬け。

冷戦は三日目に突入した。今朝のメニューは舌がしびれるほど辛い塩鮭と、皮付きナスの味噌汁（味噌汁の色が変わるから嫌だとの夫の言い分）、甘いホウレン草は嫌いという声にお答えし、あえて胡麻和え。どうだと言わんばかりに並べた朝食を、夫は顔色変えずに肅々と平らげ、「ごちそうさま」と言う。と食器をシンクに置き、鏡の前でネクタイの結び目を確認し、スーツを着込みカバンを提げて「いつてきます」といつものように出かけていった。面白くない嫌味が嫌味として通じず、元凶である犬は自分のクッションの上で朝寝ときている。私はむやみに腹が立つてクッションをたるま落としのように横から引き抜いた。体重3キロ満たない犬は転がり、恨めしそうに私を見たが、すぐソファへ移動してすやすやと眠り始める。飼い主に似て嫌な性格だ。大体夫の性格は細かすぎる。洗濯ばさみが床に落ちていようなら、やれコテツが踏んだらどうする、コテツが間違つて食べたらどうするとコテツコテツ。洗濯ばさみくらい落とす時だつてあるし、気がつかない時もあるのだ。

冷蔵庫から小鰻のパックを取り出す。ばらばらとまな板へ並べて無造作に一匹を選び出すと、がりがりとぜいごを取る。むき出しの血合いや身の奥でうつすらと骨が透ける。無遠慮に指を突っ込み、深紅のえらを引きずり出す。包丁の刃先で柔らかい腹をすつとなで、桜色の心臓や血だまりのような内臓をかきだす。一度命を奪われたのに、またこうして殺されるとは難儀なものだ。内臓はやがて小高い山になる。窓からの日差しにきらきらと、まな板で滲む血はまだ生きているようだ。

10匹目の腹にぶすりと刃を立てたとき、インターホンが鳴った。私は舌打ちすると指についた血をぬぐい、玄関へ向かう。荷物は私がかねてから欲しかったイングリッシュシュロースの鉢植えだった。贈

り主は夫で、何をこんなもので機嫌をとろうとは私も軽くみられたものだと思いつつ、ご機嫌伺いにしてはやけに包装が華やかで、不意にカレンダーの今日の日付を見れば、その数字の下に小さく几帳面な夫の文字で「プロポーズした日」と書かれてあった。

放り投げたコテツのクッションを彼の元に返し、私はキッチンへ戻る。ペーパータオルで内臓をきれいに包み、ビニール袋へ入れて硬く口を縛った。血でくすんだ小鰻の体へ水を流すと、空っぽの腹が銀色に光る。その目はまだ、波の狭間の太陽を見ている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3352e/>

小あじの南蛮漬け

2010年10月11日02時50分発行